

小規模林業だより

目次

1. 平成29年度小規模林業推進協議会第2回協議会「現地検討会」議事録 …… p.1
2. ワークスタイル …… p.2~3
3. 協議会の取り組み …… p.2~4
4. ホームページ開設のお知らせ …… p.4

第4号

平成30年
1月発刊

お問い合わせ

高知県小規模林業推進協議会事務局(高知県森づくり推進課)

ホームページURL <http://shoukiborin.info/web/>

〒780-0850 高知市丸ノ内1-7-52

TEL:088-821-4571

FAX:088-821-4576



1. 平成29年高知県小規模林業推進協議会第2回協議会「現地検討会」議事録

- 日 時/平成29年11月16日(木)
13時30分~16時00分
- 場 所/仁淀川町立中央公民館
(仁淀川町大崎460番地1)
- 出席者/76名



(1) 開会

(2) 会長挨拶

中嶋会長

仁淀川町の上名野川の地域というのは、小規模な林業、自伐型で展開する方が多くて、今でもどんどん増えています。特に、今日お世話になる明神林業の片岡博一さんは、平成19年ぐらいに社長になって、この地域で精力的に施業をされています。

どういう感じでやっているかという、小さい機械を使って、小さい道を付けて、間伐をして、持続可能な施業をしているのが特徴です。その辺りを見てもらえればと思います。

(3) 実践現地研修(場所:(株)明神林業 施業現場)

事務局

それでは、現地の検討会を始めたいと思います。まず、本日の講師のほう御紹介させていただきます。明神林業の片岡社長さんです。

片岡社長

どうも遠いところお越しいただきまして、ありがとうございます。今日は自分たちがやっている現場を見てもらおうと思いますので、よろしく願います。

事務局

それでは、中嶋会長のほうから進行をお願いします。

中嶋会長

では、早速ですが、片岡さん、案内してもらえますか。

片岡社長

ここは、地主さんがもう寝たきりになって、息子さんが面倒みてますが、入院費用をおじいさんが残してくれた山の木を切って賄ってほしいと言われたので、大きい木を切って中間の木は残している状態になっています。我々は、お客さんの事情にあわせて間伐のやり方を変えています。場所を移動しましょう。



私が11年前に林業をやり始めた時は、3トンのユンボとグラブプル、1トンの林内作業車しかありませんでした。それを少しずつ買い足していき、現在は、ここに見えるくらいの機械を保有しています。

この現場で見てもらいたいのは作業道です。必ずスイッチバックの場所は、高さを上げています。なぜかという、スイッチバックのところで、水を逃がすためです。1カ所に集中しないように。これによって道が長持ちします。台風明けても、私たちは作業道を直して現場へ入るといことは、今まで数回しかありません。

水を最終的に流す場所は平らなところがいいんです、全体的に流れてくれるから。ただ都合良くいかない場合もあります。けど基本的には、水はけをどのようにしておくのかということイメージして作業道をつくっています。ちょっとおりましたらどうか。

ここは放置された山です。枯れ木が多いです。20%ぐらいは枯れていると見えます。切り捨てをしてるように見えますが、これは枯れて倒れています。だから放置された山が、いかにこのアンバランスな状態で成長してしまうのかわかります。切ってみても、中腐れが多いです。せっかく大きく育っているのに、中が腐っている。やはり手を入れて適切に管理しないと、せっかく成長した良い木でも製品としては売れません。適切な時期に適切な間伐をするべきだと思います。

何か質問は。

出席者

中が腐ってるかどうかというのは、切ってみないとわからないものですか。

片岡社長

わからないことが多いです。あと、中が腐ってる木というのは、表面がぼこぼこになっているんですね。

出席者

造材作業は2人でやっていますか。

片岡社長

いや、本当は1人がいいと思います。なぜなら、2人作業では事故が多いんですよ。大きい木を造材するために持ち上げてしまうと、枝で見えなくなるときがあります。すると、グラブプルで握ったつもりが、向こう側に玉切りしてくれる人がいた場合、その人に当ててしまうことがあります。ですので、基本は1人で引く張るようにしています。



出席者

スギの木が滑り落ちることはないんですか。

片岡社長

もちろんあります。これぐらいの角度が限界です。これ以上になると、滑り落ちる可能性があるんで、若干斜めに切るとか。時と場合によりますが、上向きに切ることもあります。

出席者

支障木って、収穫材積の何割ぐらいありますか。

片岡社長

どれぐらいでしょうね。15%ぐらいじゃないですか。そんなになんとも思いません。ただこの作業道の幅は2.5メートルなんで、もう少し支障木はあると思います。普段は2.2メートルの道です。

出席者

なぜ2.2メートルかという、作業道の補助を受けようとする、2.2メートルと決まっているからですか。

片岡社長

でも、山主さんは作業道をつけるのを嫌います。山が作業道ばかりになったとか、そういう話も良く聞きます。ですので、できるだけ作業道は狭くしようとしています。

出席者

材はどのくらいの頻度で出していますか。

片岡社長

毎日です。5時に仕事が終わってから、私が市場まで運んでいます。

中嶋会長

どうもお疲れさまでした。明神林業の片岡さん、今日はありがとうございました。今日の片岡さんのお話を聞いて、参考にできる部分は是非やってみてほしいと思います。

片岡さんは高性能林業機械を保有していますが、小規模な林業を始めようとする方は、まずはコストのかからないユンボとか林内作業車を使っていただきたいと思います。1トンでも十分に材は出ますし、収入になります。

それから水処理のお話がありました。これは非常に重要なことです。壊れない作業道をつくる時は、水はけを良くすることが大事です。

いろんな多様性があるいいのではないかと思います。前回、現地研修をした谷岡さんのやり方と今日の明神林業さんのやり方は、随分違ってきます。自分に合っているところを、参考にいただければと思います。

こういった山奥でも、林業でたくさんの若者が就業しています。小規模な林業に魅力を感じていただければと思います。今後も現地研修などを通して、勉強していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

本日は、寒い中、お疲れさまでした。ありがとうございました。



2. ワークスタイル

林業と飲食業（カフェ経営）



2016年に東京から
四万十市へ移住、
2シーズン目の実体験
夫婦二人三脚マイペースで
林業とカフェを営む

四万十市 久保田 恭彦さん



第2の人生、豊かに暮らせるヒントは地方にあり。

2016年に移住するまでマーケティングリサーチ会社に勤め、海外を飛び回るビジネスマンだった久保田さん。

もともと仕事も旅行も海外志向だったが、第2の人生を考える中で日本にもいいところがあるのでは？ 引退して悠々自適ではなく、働けるうちに地方でしっかりと働く、林業にかかわりたいと漠然と考えていたところ、東京で高知県小規模林業推進協議会 中嶋健造会長の講演を聞いたのをきっかけに、2016年4月で夫婦が高知県に移住した。

高知市内、本山町、佐川町等も見て回ったが、圧倒的な自然とシメントモリモリ団等が持続可能な林業を進めているところに共感し四万十市への移住を決めた。



3. 協議会の取り組み

副業型林家育成支援事業

(伐倒、造材、搬出 2018年1月13日 佐川町)

- 支援制度：副業型林家育成支援事業
 - 取材日：平成30年1月13日
 - 場 所：佐川町
 - 利用者：佐川町
 - 費用負担：利用者負担有り
- ※参加費無料

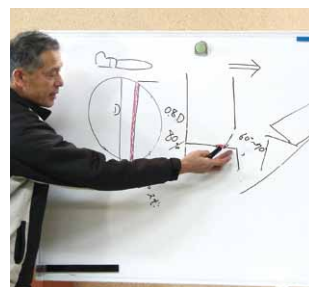


【アドバイザー略歴】

山口 祐助：兵庫県に約180haを所有し、作業道を高密度に張り巡らせて、抜き伐りで効率的な木材生産や、針葉樹と広葉樹を混生させた整備を進めている純粋な自伐林家。

高知県佐川町では山林の管理に困っている方、町内で新たに林業を始めたい方、自伐型林業に関心を持っている方を対象に、年間を通して4回（各回2日）の自伐型林業研修を行っており、林業未経験者、林業初心者でもチェーンソーの取扱、伐倒・造材・搬出から、作業道の開設まで座学と実技講習を交えた自伐型林業に必要な基礎技術を身につける研修となっている。

今回は伐倒・造材・搬出について兵庫県の自伐林家 山口祐助さんを講師に迎え、自伐、間伐作業に必要な技術研修を行った。



林業大学校で取れる資格は全て取得、支援制度も活用して技術習得

林業経験のない久保田さんがまずやったのは、林業大学校「短期課程」での技術資格の取得と現場経験、「とれる資格は全て取った、当然それだけでは全然足りない、足りない分は近くの現場に参加、とにかくいろんな繋がりを使って現場に参加し修行させてもらった」。

支援制度も活用した。県の支援制度「アドバイザー派遣事業」を利用し、作業道の開設や伐木・選木の技術支援を行うアドバイザーを施業地に呼んでアドバイスを求める事ができた、「実際に現場でアドバイスを求める事ができるのは本当にありがたい」。

他にも県の支援制度の、防護服等の安全装備の購入に関する支援制度や、バックホー等の機械のレンタルに関する支援制度、

間伐・作業道の開設に関する支援制度に加えて、国や市町村独自の補助金を併用している。



地域との繋がり、山との出会い、夫婦二人でコツコツと

夫婦で林業に携わり1シーズン目の昨年は250mの作業道を自ら開設した、2シーズン目の今年は370mを目標に作業を行っている。

今年からはやっと出荷できる材が取れるようになった、作業のほとんどは恭彦さんが一人で行うが、重機の取扱、材の搬出、カフェの経営など奥様と二人三脚でコツコツと生活の基盤を作りあげている。

現在久保田さんが作業をする山は、同じ地域の小規模林家の方から、山主さんを紹介された事がきっかけ。オープンしたばかりのカフェの場所も、実はこの山主さんの持ち物、「空き家の使い方を山主さんと話す中で、観光客目線でカフェとか良いですよーって言った自分かやることになりました。これからは副業型林業で素材生産だけではなく、高密度に道を付けて将

来は一般の人が入ってこれるような森林公園のような良い山づくりをしていきたい、将来は施業場所を広げ、できれば自分たちの山をもちたい」と久保田さんは話す。

地域と山に根付いた豊かな暮らしが続いていく。



取材時点（2017年12月22日）
難所の作業



作業道開通
（2018年1月9日）



久保田さんの経営するカフェ 石窯焙煎コーヒー「SHADE TREE Coffee」

- ホームページ <http://shadetree-coffee.com/>
- フェイスブック <https://www.facebook.com/shadetree.shimanto/>
- インスタグラム https://www.instagram.com/shade_tree_coffee/

「すくも森林塾」副業型林家育成支援事業

（作業道開設 2018年1月27日 宿毛市）

- 支援制度：「すくも森林塾」
副業型林家育成支援事業
- 取材日：平成30年1月27日
- 場 所：宿毛市
- 利用者：宿毛市
- 費用負担：利用者負担有り
- ※参加費無料



【アドバイザー略歴】

橋本 光治：徳島県の橋本林業 代表
 専業自伐林業者として、38年間林業に従事。
 伐倒・搬出・枝打ち等林業全般に取り組む。

「すくも森林塾」では宿毛市内に完成した木質バイオマス発電所の活用、森林の利活用を目的とし宿毛市民を対象に、チェーンソー研修や間伐の基礎、林業に必要な建設機械研修など、自伐型林業に必要な基礎技術を身につける研修を行っている。

年間6回（12日間）の研修を受けると林業関係の資機材購入費に補助（上限5万円）が受けられる。

今回は作業道の開設について橋本光治さんを講師に迎え座学と技術研修を行った。



林業体験ツアー

(2018年2月23日～25日 仁淀川町)

仁淀川町では、町内の林業の担い手確保を目的に林業体験ツアーを行っており、今回の開催で第3回目となる。

仁淀川町をフィールドに施業している事業者（明神林業、木こり屋）での視察・林業体験や、林業事業者の方々との交流会を通して、これから林業をやる方、移住を考えている方にとって貴重な体験ができるものとしてご好評頂いている。



- 日 時：平成30年2月23日（金）～25日（日）
2泊3日
- 場 所：仁淀川町
- 募集定員：15名（参加15名）
- 参加費無料、交通費支給（2万円上限）、
宿泊費無料（宿泊先指定）
1日目／13時30分～ 受入式・オリエンテーション
2日目／9時00分～ 現場視察（明神林業）
昼休憩
13時00分～ 現場視察（木こり屋）
3日目／製材所見学・解散

4. ホームページ開設のお知らせ

より見やすく！より使いやすく！

ホームページを リニューアルしました。

URL ▶ <http://kochi-shoukiborin.jp/>

会員の活動事例や支援制度の紹介、協議会の開催など様々な情報を掲載していきます。
ぜひ、御覧ください。

小規模林業

検索



写真が動く!?!を 体験しよう!

無料アプリ「COCOAR2」を
ダウンロードして動画を見よう!

このパンフレットの マークのある写真に
スマートフォンをかざすと写真が動き出します!

「COCOAR2」ダウンロード



*紙面から外すとフル画面に変わります。
*動画を押しと一時停止～再生が可能です。

使い方



① アプリを起動



② 写真をスキャン



③ 紙面で動画が流れます



④ Xをタップで
次のスキャンへ



小規模林業 動画

※タップ後の遷移先は「<http://kochi-shoukiborin.jp/lp/>」です。

